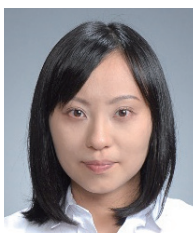




一期一会



宮田真理

長岡工業高等専門学校物質工学科
[940-8532] 長岡市西片貝町 888
助教, 博士 (工学).
専門は機能性高分子材料.
miyata-m@nagaoka-ct.ac.jp
www.nagaoka-ct.ac.jp

国立高等専門学校機構は全国に51校の国立高等専門学校を設置しており、私が所属する長岡工業高等専門学校(長岡高専)は、1962年に最初に設置された12校のうちの一つです。高専は、中学校卒業後の学生に対して5年一貫の教育プログラムを実施します。長岡高専では、高専1年次からさまざまな実験の授業が行われ、大学1年相当になる4年次後期には、学生は研究室に配属されます。卒業した学生は、さらに継続した2年間の教育プログラムを実施する高専の専攻科へ進学、大学3年次へ編入学、または企業へ就職します。専攻科修了後に大学院進学を希望する学生もいます。

そんな長岡高専に着任して今年で2年目になります。博士号取得後から高専教員として過ごしたこれまでの約1年半は、新しいことの連続であり、多くの貴重な経験をすることができました。高専教員は助教であっても研究室を立ち上げ、研究室運営を任せられます。研究室名を決めるところから始まり、配属学生の指導、運営に欠かせない研究資金の獲得に励みます。初年度には、興味をもってくれた学生4名が配属を希望してくれました。研究室立ち上げの初年度ということもあり、まずは必要な物品を揃え、工具を持ち出して学生と一緒に実験設備や装置を組み立てるところから始めました。立ち上げにともなう実験室の片付けなどで人手が不足していたときには、学生をはじめ多くの方々が助けてくれたことを本当に感謝しています。次年度以降、専攻科への進学を希望してくれる学生がいることは大きな支えとなっており、今後活発な研究室運営ができるよう、努めていきたいと思っています。

ここで長岡高専の研究推進モデル校としての取り組みを一部ご紹介したいと思います。長岡高専には、教員の萌芽的研究支援と学生教育を主として、低学年からの研究活動を活発化させるために制定されたプレラボ制度があります。高専に入学した実験やものづくりが好きな学生が、低学年からプレ研究室配属を行って研究活動に参加できる制度です。高専1年次から研究室にプレ配属した学生は、5年次の卒業研究まで長期間にわたり研究活動を行うことも可能であり、教員と学生の双方にメリットがあります。こういった制度も踏

まえ、比較的早い段階で研究に携わることができる高専の環境は、高専出身ではない私にとって羨ましく感じられます。

私が高専教員に興味をもったのは、博士課程に在籍していた学生のときでした。大学主催の企画で長岡高専の専攻科学生が行う研究発表会に参加したことがきっかけでした。普通校出身の私は高専教員について知る機会はそれまでなく、大学4年相当になる専攻科2年生が、それまで過ごした研究室配属後の約3年間でどんな研究発表をするのか知りたと思いました。学生の質問の受け答えや英語ショートプレゼンの様子などを見て、想像以上に良い印象を受けたことは今でもよく覚えています。私が当時質問をした学生は、大型研究費を獲得している研究室の学生であり、国際学会での発表や受賞経験もあったことは着任後に知りましたが、納得できました。当時は、数年後に教員として専攻科の発表会を運営する立場になるとは全く想像できませんでしたが、実際に目で見て感じ取ったものはやはり大きかったと思います。

着任後、高専教員として嬉しいと感じていることは、高専教員になりたいと伝えてくれる学生に出会うことです。熱心に頑張る学生の姿は、応援したい気持ちだけでなく、自分も頑張ろうという気持ちにさせてくれます。教員になって、学生からもたくさん元気をもらっていることに気づかされました。新しい経験は不安もともないませんが、前向きに捉えて取り組むことは、仕事と私事の両方でとても大事だと感じています。家事や育児を含むほとんどの私事の部分は性別に関係なく取り組めることであり、男女共同参画を推進するためには、そういった共通認識のもとで協力し合うことが必要です。現在私が所属する物質工学科は教員全体の25%が女性教員であり、各学年の女子学生比率も40%程度であるため工業系学科の中では女性比率が高いですが、どんな場面でも性別を意識することなく過ごせる環境は魅力的だと思います。さまざまな分野の方々と交流する機会も増えて多くのことを学び続ける日々ですが、人との出会いや経験を大切にしながら、これからも励んでいきたいと思っています。